

文献レビューの書き方 ―文献レビューのすすめ―

今回から3度にわたってコラムを担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。普段私は、青年期のキャリア発達とその支援法を研究しています。特に、中学生のキャリア発達支援プログラムを考案し、ゼミの学生と共に、中学校のキャリア教育のお手伝いとして、キャリア発達のアセスメントと心理的支援（介入）を行い、現場の先生方と交流しながら中学生のキャリア教育の効果測定に取り組んでいます。

今回は、研究推進委員会からのリクエストをいただき、「文献レビューのすすめ」というサブタイトルで、文献レビューをすることで得たものについて、自己紹介を兼ねてお話をさせていただきます。キャリア教育研究では「進路選択自己効力に関する研究の現状と課題」を掲載していただきました。10年以上が経過し、その後も進路選択自己効力に関する研究は毎年蓄積されており、内容が最新とは言えません。またこの10年で文献の探し方や入手方法はだいぶ変化しました。しかし、研究を進めるうえで、「論文を読む」ことの重要性は変わりません。また、文献レビューは、地味で時間がかかり、労力も必要ですが、その分野に取り組もうとする他の研究者、初学者にとって欠かせない、道案内の役目を果たします。

私は、大学時代に小学校の教員免許状を取得するコースに所属し、発達心理学ゼミを強く希望しました。児童期や思春期の子供たちが大人になっていくプロセスに興味を持ち、しかし教師とは違う立場で子供の育ちや教育現場を支えたいと考えたとき、キャリアという領域に出会いました。博士後期課程に進み、興味のある研究テーマはあるものの、思い付きのような計画書しか書けずに苦しかった時期に、「集中して先行論文を読んでまとめる作業をするとよい」と指導教員の助言をいただきました。研究室の先輩からは、「一日に2～3本のペースで読めば、三か月でかなり読める」と教わり、なるほどそんなペースで読むものなのか、と論文を入手して読み始めましたが、「そんなに読めるかい！」と数日後にはツッコミをいれていました。

慣れないうちは、読めないのは当然です。浦上先生（第2回目のコラム参照）も書かれている通り、最初はじっくり読み始めていくとよいと思います。あきらめずに続けていくと、だんだんと論文と出会える感覚が持てるようになりま

した。検索も、図書館カウンターの方とのやりとりも上手になってきました。ある論文で引用された論文を探し、すぐにダウンロードできる場合は保存・印刷し、図書館に蔵書があればコピーし、それ以外は図書館で申し込み、取り寄せます。気づけば申し込み先が海外の図書館になり、ストックノート（エクセルに記録した文献）は300を超えていました。今思うと、それはどんな研究が世の中の人々のために、自分のために価値あることなのかを探す作業だったように思います。

現在、日本語の論文を検索する場合なら、J-STAGE や CiNii で検索できますが、海外の文献も検索する場合は、Google Scholar などが便利です。大学に所属している方は各大学で契約している文献データベース（学内の電子ジャーナル（例えば、心理学でしたら、PsycINFO（サイコインフォ）など）を活用されるのがよいと思います。

研究者として、文献情報のアップデートはこまめに、怠らず、誠実に続ける必要があると思います。みなさんも普段、よい関係を維持していくために、大切な友人や家族の情報はアップデートしているはずです。自分はもちろんですが、相手の状況も変化しているからです。

これまでのコラムでも繰り返し、多くの先生が「論文を読む」ことの重要性に触れていますが、相手を知れば知るほど、世界は面白くなります。自分の立ち位置もわかってきます。

（福島大学 富永美佐子）